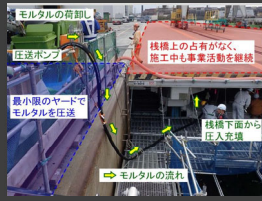


# 第6回 インフラメンテナンス大賞

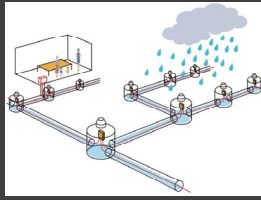
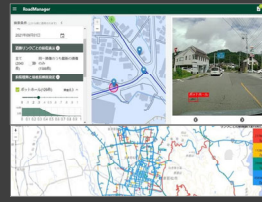
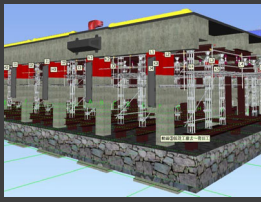
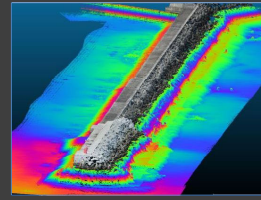
-ベストプラクティスの水平展開に向けて-

国土交通省・総務省・文部科学省・厚生労働省  
農林水産省・経済産業省・防衛省



モジュール分析詳細 7日以内(2020/09/27まで)

TOP	故障部位	信頼度
1	2日故障_摩耗V区画_定期検1	10.0%
2	2日故障_摩耗V区画_集配部 PH28-PH29.1	3.0%
3	3日故障_摩耗V区画_定期検1	2.1%
4	4日故障_摩耗V区画_定期検1	2.1%
5	3日故障_摩耗V区画_集配部 PH28-PH29	2.0%
6	7日故障_摩耗V区画_定期検1	1.9%



# 第6回 インフラメンテナンス大賞 について

## インフラメンテナンス大賞の目的

日本国内のインフラメンテナンスに係る優れた取組や技術開発を表彰し、ベストプラクティスとして広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取組を促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的に実施するものです。

## 創設の位置づけ

- 社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会技術部会 提言（平成27年2月）
- 日本再興戦略改訂2015 -未来への投資・生産性革命-（平成27年6月30日閣議決定）
- 日本再興戦略2016 -第4次産業革命に向けて-（平成28年6月2日閣議決定）
- 政務官勉強会 提言（平成28年7月29日）

## 応募部門について

### ア. メンテナンス実施現場における工夫部門

施設管理者が管理するインフラについて、当該施設管理者自ら又は委任、委託等を受けた企業、団体等が行うメンテナンス活動における工夫（ウに該当するものを除く）

### イ. メンテナンスを支える活動部門

アの取組以外で、市民活動や人材育成等のインフラ機能の維持に貢献するために行う活動（ウに該当するものを除く）

### ウ. 技術開発部門

インフラメンテナンスを効果的・効率的に改善する研究・技術開発

## 表彰の種類について

### 1. 大臣賞

国土交通大臣賞、総務大臣賞、情報通信技術の優れた活用に関する総務大臣賞、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、防衛大臣賞

### 2. 特別賞

### 3. 優秀賞

## 第6回の応募状況について

募集期間：令和4年3月22日～6月17日

応募件数：195件

受賞者数：37件

審査・選出方法：有識者による選考委員会（委員長：三木 千壽 東京都市大学学長）による審査を経て受賞者を選出

# 第6回 インフラメンテナンス大賞 受賞案件

※凡例 ア メンテナンス実施現場における工夫部門 イ メンテナンスを支える活動部門 ウ 技術開発部門

省	No	表彰の種類	部門*	分野	応募者 (代表企業・団体名)	応募案件名	掲載ページ
総務省	1	優秀賞	ウ	情報通信 関係施設	株式会社四電技術コンサルタント	ICT技術とBIM/CIMモデルを融合した維持管理手法の構築に向けた取組み	1
	1	特別賞	ア	文教 施設等	明石市総務局財務室財務担当	市有施設包括管理業務委託	2
文部科学省	2	優秀賞	ア	文教 施設等	大田原市教育委員会	学校施設における法12条点検の取組みと修繕工事のインソーシング	3
	1	厚生労働 大臣賞	ア	水道	八尾市水道局 施設整備課	Excelを活用した直営での水道施設台帳システムの運用方法	4
農林水産省	1	農林水産 大臣賞	イ	水産 基盤等	一般社団法人 漁港漁場新技術研究会	地方公共団体を支援する漁港漁場施設の維持管理ガイドラインの作成・普及	5
	2		ウ	農業 農村	藤村クレスト株式会社	パネル被覆工法「ストパネ工法」による腐食鋼矢板水路の補修・迅速再生技術の開発	6
	3		イ	農業 農村	いなみ野ため池ミュージアム運営協議会	いなみ野ため池ミュージアムの取組	7
	4	特別賞	イ	農業 農村	新潟県農地部農地建設課	新潟県における振動測定による農業用ポンプの状態監視の取組	8
	5		イ	農業 農村	岐阜県土地改良事業団体連合会	地元管理者による施設監視情報の蓄積と図表選択式による施設点検システムの開発	9
	6		ア	農業 農村	岩見沢市農政部	5次元治水対策による持続的で柔軟な地域強靱化	10
	7		ア	農業 農村	磐田用水東部土地改良区	新技術の導入と地域ぐるみの活動で農業水利施設の管理を効率化	11
	8	優秀賞	ア	農業 農村	山形県ため池サポートセンター	ICTを活用したため池定期点検への挑戦	12
	9		イ	水産 基盤等	長崎県庁 水産部 漁港漁場課	県職員OBによる施設点検への協力と技術継承	13
	10		ウ	農業 農村	株式会社 荏原製作所	ドライ始動（低トルク始動）対応横軸ポンプの技術開発	14
	11		ウ	林野	秋田県立大学	危険予測の可能なIoTセンサと間伐材を用いた雪崩・落石の計測網開発	15
経済産業省	1	経済産業 大臣賞	ア	ガス	大阪ガスネットワーク株式会社	担い手不足の社会に対応した都市ガス供給用ガバナのメンテナンス効率化	16
	2		ウ	電力	東京電力パワーグリッド株式会社	送電用鋼管鉄塔の部材腐食に伴う現場VaRTM工法によるCFRP補修技術の開発	17
	3	優秀賞	ア	電力	国立大学法人 滋賀医科大学	接地極無開放方式を採用した接地端子盤	18
防衛省	1	防衛大臣賞	ウ	自衛隊 施設	日本工営株式会社	BSC工法を活用した演習場内道路路面等の保全	19
	2	優秀賞	ア	自衛隊 施設	日本海洋コンサルタント株式会社	ドック排水設備、通水路の目視調査における水中ドローンの活用	20
国土交通省	1	国土交通 大臣賞	ア	河川・ダム・ 砂防・海岸	松江市上下水道局	文化財に指定されたダムの堤体PSアンカー工法による耐震補強工事	21
	2		イ	道路	岩手県県土整備部道路環境課	高校生との協働による道路インフラメンテナンスの取組	22
	3		ウ	港湾・ 海岸	株式会社大林組	圧入施工が可能な超高耐久性モルタルによる補修技術（スリムフローグラウト工法）の開発	23
	4		ア	空港	国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所	100年間性能を確保する羽田空港D滑走路の維持管理サイクル	24
	5	特別賞	ウ	下水道	大成建設株式会社	耐硫酸コンクリートを用いた下水道施設のメンテナンスフリー技術の開発	25
	6		ウ	鉄道	西日本旅客鉄道株式会社	出改札機器CBMの実現に向けた故障予測AIの開発	26
	7		ア	道路	多摩市	包括的民間委託を活用した橋梁維持管理の仕組みづくり	27
	8		ア	道路	国土防災技術株式会社	軽量ボーリングマシンを使用した高品質盛土診断技術・QSボーリング工法	28
	9		ア	港湾・ 海岸	国際航業株式会社	ナローマルチビーム・レーザスキャナ・UAVを用いた港湾施設の効率的な三次元計測	29
	10		ア	港湾・ 海岸	東亜建設工業株式会社	CIMを取り入れた岸壁補修工事における施工管理の効率化の取組	30
	11	優秀賞	イ	道路	ウシワカ製作委員会	ウシワカ・プロジェクト	31
	12		ウ	道路	三井住友海上火災保険株式会社	～産学官連携DXで道路点検をサポート～ ドラレコ・ロードマネージャー	32
	13		ウ	河川・ダム・ 砂防・海岸	大林・佐藤・日本国土特定建設工事 共同企業体	DX-ダム本体建設における、CIMの設計・施工・維持管理への一貫利用	33
	14		ウ	下水道	日本水工設計株式会社	下水道の雨天時浸水検出技術「ラインスクリーニング」の開発	34
	15		ウ	鉄道	東日本旅客鉄道株式会社	鉄道建築物被災度判定アプリの開発と判定訓練手法の確立	35
	16		ウ	鉄道	東日本旅客鉄道株式会社	モニタリング技術を用いた架線設備検査手法の開発と本格導入	36
	17		ウ	公園	一般社団法人日本公園施設業協会	都市公園における遊具等の点検データベースシステムの開発と運用	37



高校生との協働による橋梁点検のサイクル

【現地点検】 点検 【健全性診断】 診断 【点検調書】 記録 【報告会】 報告会 【補修設計勉強会】 措置

メンテナンスサイクルの流れに沿って橋梁のメンテナンスを実習形式で学習

高校生との協働による橋梁点検の成果

点検調書には携わった生徒の名前も記載され橋とともに残り続ける

高校生との協働による橋梁点検の報告会

R3報告会(一関工業高校) 一関工業高校の生徒 岩手県の職員

高校生が点検結果を県に報告し成果を県政に活用

高校生との協働による橋梁点検の情報発信

県政テレビ番組「いわて! わんこ広報室」 道路インフラの維持管理 道路インフラの維持管理 道路インフラの維持管理

この経験を生かして頑張っていきたいと思います

自然の良質な維持管理に努めています

## 道路分野 高校生との協働による道路インフラメンテナンスの取組

### 取組概要

岩手県が道路法に基づき実施する橋梁の定期点検及び健全性の診断(以下「橋梁点検」という。)について、県内の土木系学科の高校生と協働で取り組むことにより、高校生に道路インフラメンテナンスの必要性や重要性の理解を深めてもらうとともに、自らが実施した点検が県民の安全な暮らしを支えるという土木の魅力を感じてもらい、将来のインフラメンテナンスの担い手の確保・育成を推進するものである。

併せて、本取組に関する広報や報道等を通じて、県民にインフラメンテナンスの必要性や重要性等を広く情報発信するものである。

### 受賞理由

高校生自らが橋梁の点検調書を取りまとめる点が画期的であり、年々対象高校を増やしている。継続的に実施されており、将来の担い手不足の解消に寄与すること、通常授業では学べない内容であり学校教育の向上に寄与すること、取組を通じて建設業界への就職が増えていることが評価された。

### 取組のポイント

高校生自らが、メンテナンスサイクルの流れに沿って、県及び建設コンサルタントの指導を受けながら「岩手県道路橋定期点検要領」に基づき橋梁点検を行うものである。

高校生との協働による橋梁点検の成果は、点検調書として取りまとめ、報告会の場で高校生から県に提出・説明していただくことにより、岩手県道路橋長寿命化修繕計画や補修設計等の基礎資料として県政に活かされる。

点検調書には、点検を実施した生徒の名前も記載され、橋梁とともに残り続けることから、自ら点検した橋梁への愛護意識を育むことも期待している。

### 受賞者について

#### 受賞者

岩手県 県土整備部 道路環境課  
菅原 博秋 / 藤島 謙 / 亀田 健一  
熊谷 利明 / 平賀 柁人 / 川村 匡永

#### コメント

このたびは、国土交通大臣賞受賞の栄誉を賜り、誠に光栄に存じます。また、本取組に御協力をいただいた高校関係者や建設コンサルタントの皆様にも心から感謝申し上げます。

今回の受賞を励みに、未来世代によりよいインフラを引き継ぐため、インフラを「守る」、担い手を「育む」、メンテナンスの必要性等を「伝える」という本取組等を通じ、持続可能なインフラメンテナンスの実現に向け、引き続き取り組んでいきます。

#### 団体概要

本県は、北海道に次ぐ面積を有し、東日本大震災津波の復興支援道路として整備した宮古盛岡横断道路(一般国道106号)等255路線約4,200kmの道路や約2,800橋の橋梁等のインフラを管理しています。

県民の生活を支えるインフラを良好な状態で次世代に引き継ぐため、長寿命化修繕計画に基づく計画的な修繕等を推進するとともに、本取組をはじめとする県民との協働による維持管理などに取り組んでいます。

#### 問い合わせ先

岩手県 県土整備部 道路環境課  
維持グループ  
019-629-5878 / AG0004@pref.iwate.jp

## 第6回 インフラメンテナンス大賞 講評

6回目となる今回は、昨年同様コロナ禍の状況にもかかわらず、7省25分野について地方公共団体、教育機関、企業、NPO法人等、幅広い団体から合計195件の応募があり、技術開発や地域の活動等のインフラメンテナンスに係る優れた取り組みを表彰した。

第七回インフラメンテナンス大賞より、新しく環境省が参画し、環境大臣賞が新設されることとなり、より多くの分野における取組や活動について表彰を行うことで、インフラメンテナンスに係る優れた取り組みや技術開発を広く社会に伝えるとともに、インフラメンテナンスに関わる関係者の更なる技術力の向上や活発な地域活動の推進に寄与したい。

### 第6回 インフラメンテナンス大賞 選考委員会

## 第6回 インフラメンテナンス大賞 選考委員

- |     |    |  |
|-----|----|--|
| ○家田 | 仁  | 政策研究大学院大学 特別教授<br>社会資本メンテナンス戦略小委員会 委員長<br>インフラメンテナンス国民会議 副会長 |
| 岩波  | 光保 | 東京工業大学 環境・社会理工学院 教授  |
| 上野  | 武  | 千葉大学大学院 工学研究科 名誉教授   |
| 大森  | 文彦 | 大森法律事務所・弁護士  |
| 小川  | 武史 | 青山学院大学 理工学部 客員教授   |
| 椀木  | 洋子 | 土木学会コンサルタント委員会 委員<br>株式会社エイト日本技術開発<br>国土インフラ事業部 上席理事・技師長     |
| ○小松 | 幸夫 | 早稲田大学 理工学術院 名誉教授   |
| 沢田  | 和秀 | 岐阜大学<br>工学部附属インフラマネジメント技術研究センター 教授                           |
| 鈴木  | 哲也 | 新潟大学 農学部 教授  |
| 滝沢  | 智  | 東京大学大学院 工学系研究科 教授  |
| 知花  | 武佳 | 東京大学大学院 工学系研究科 准教授   |
| 恒川  | 和久 | 名古屋大学大学院 工学研究科 教授  |
| 福岡  | 孝則 | 東京農業大学 地域環境科学部 准教授   |
| ◎三木 | 千壽 | 東京都市大学 学長  |
| 森川  | 博之 | 東京大学 先端科学技術研究センター 教授   |
| 横山  | 明彦 | 東京大学大学院 工学系研究科 名誉教授  |